

1 事業名

「体験の風をおこそう」運動協賛事業

平成26年度教育事業「kids together えいご de キャンプ in テンパーク」～オータム

2 趣旨(事業の目的)

東日本大震災の被害を受けた陸前高田市、大船渡市、釜石市、宮古市、住田町、大槌町、山田町の児童生徒に対し復興支援の一環として、様々な自然体験活動や英語を使った国際交流活動を行い、同郷の友達と交流やふれあいを深めるとともに、豊かな心を育み心身のリフレッシュの機会とする。

3 期日

平成26年10月12日(日)～13日(月) 1泊2日

4 参加者

陸前高田市、大船渡市、釜石市、宮古市、住田町、大槌町、山田町の小学校3年生～中学校3年生163名(小学生 160名, 中学生 3名)

ボランティア 72名

(岩手山ボランティア 36名, NICE ボランティア 19名, HSBC 社員ボランティア 17名)

5 連携・協力

(1) 主催: NPO法人日本国際ワークキャンプセンター(NICE)

(2) 共催: 国立岩手山青少年交流の家

(3) 協賛: HSBCグループ、みちのく「体験の風をおこそう」運動推進協議会

(4) 協力: 自然遊びクラブ

(5) 後援: 沿岸南部教育事務所、宮古教育事務所

6 内容

(1) 日程

【第1日目 10月12日(日)】

11:30	13:00	14:00	16:00	17:30	19:00	20:00	21:30	22:00	22:30	
受付	昼食	オープニング	森のウォークラリー	ハロウィンパーティー準備	夕食	ハロウィンパーティー①	入浴	グループミーティング	就寝	スタッフミーティング

【第2日目 10月13日(月)】

6:30	7:00	9:00	11:30	12:00	13:00	14:00	14:10
起床洗面	朝食	ハロウィンパーティー②	グループミーティング	昼食	クロージング	子供出発	スタッフミーティング

(2) 指導者

自然遊びクラブ

NPO法人日本国際ワークキャンプセンター(NICE)

岩手大学地域連携推進センター

岩手山青少年交流の家 企画指導専門職
事業推進係

豊留 雄二 氏

上田 英司 氏

佐々木 正人 氏

丹 康浩

及川 未希生

(3) 企画のポイント

東日本大震災の被害を受け仮設住宅で暮らす子供たちや、学校の校庭に仮設住宅が立ち並び、十分な遊びができない子供たちが、思いっきり遊ぶことのできる体験プログラムを設定した。事前に安全管理意識を高めるための綿密な打ち合わせを実施したことで、交流の家、HSBC、NICE のスタッフ間で密な連携をとることができ、プログラムを安全に進めることができた。森のウォークラリーでは、チームで協力したりチャレンジしたりする機会を多く設定した。その際、仲間と支え合い交流を深めるとともに楽しみながら英語に触れ国際理解を深めることができるように外国人ボランティアと密な打ち合わせを行った。

(4) 広報のポイント

沿岸南部教育事務所、宮古教育事務所の理解と協力を得て、両事務所管内の小学校・中学校にチラシを配布し企画の周知を行った。

(5) 運営のポイント

えいご de キャンプは、HSBC グループのコーポレート・サステナビリティ(社会貢献)事業の一環で行われている。また、委託先である主催団体の NICE は、青年向けの国際ワークキャンプ団体である。

NICE は、組織としての運営ノウハウは高いレベルで有しているが、青少年に関わるための教育的ノウハウや、安全に野外活動を実施するための指導力の確保が課題である。そこで、開催地である岩手山青少年交流の家が職員及びボランティアを派遣することで教育的ノウハウを補完し、同じく開催地の団体である「自然遊びクラブ」が野外活動の安全面についてコーディネートすることで、事業の効率的かつ質の高い運営を実現している。

交流の家を含めた4つの団体は「沿岸地域の児童を支援する」という目指すべきミッションを共通で認識しており、それぞれの団体が、その特性を存分に活かすことで有機的な協力関係を実現している。

NICE のキャンプ運営ノウハウ、HSBC グループの多国籍社員スタッフの派遣、自然遊びクラブの野外活動スキル、そして岩手山青少年交流の家の教育的ノウハウが密接に絡み合い、事業を運営している点が、本事業における最大の運営ポイントであるといえる。

また、交流の家の法人ボランティアを数多く動員することで、ボランティアのスキルアップの機会にもなっている点も特質される運営の特徴であるといえる。次年度は、ボランティア育成の側面も強化していく方向で計画が進んでおり、さらに有機的な事業展開が期待できる。

7 成果とその普及

アンケート調査による総合的な満足度は非常に高いものであった。子供達の感想からは、「友達もたくさんつくることができ、ハロウィンパーティーも楽しかった。外国の人ともいろいろなゲームができてとても楽しかった。」「外国の人に教えてもらいながらいろいろな国や言葉を学ぶことができた。」「英語を使うゲームで外国の人と話ができるようになったし、今年も新しい友達ができとても楽しかった。またこのキャンプに参加したい。」などの感想が寄せられた。このことから、キャンプの特徴である外国語圏のスタッフとの国際交流やコミュニケーション・友達同士の交流を通して心身共にリフレッシュでき、活動内容の有効性が認められたと考えられる。また、普段外国の人と接することが少ない子供たちにとってこのキャンプは、外国語圏のスタッフとコミュニケーションを図る大変良い機会となった。様々な活動をともに行うことで英語を身近なものと感じることができた。

また、えいご de キャンプでは、平成25年度から継続して参加者の「情動知能(EQSC)」調査を実施している。データの分析から震災が被災地の子供に対する心理的な影響が明らかとなってきているほか、特に自己と向き合う力が低いことがうかがえる。このことから、調査結果をより詳細に分析することは、子供たちの実情に合わせたケアやプログラムを考える上で非常に有効な情報となると考えられ、今後もデータの蓄積を行うとともに多角的に分析を行っていきたい。

企画の概要・報告書等はHPへの掲載，館内に写真を掲示し利用者への紹介をとおして幅広く普及に努めた。

8 今後の課題

毎回，季節に応じたプログラムを提供しているが，さらに，参加者が満足できる活動について，今後ともプログラムの内容を精査し，より良いプログラムを提供していく必要がある。さらに，HSBC・NICE等との連携を深め，外国人スタッフと英語を用いた活動プログラムを提供し，長期計画で事業展開を行っていきたい。



森のウォークラリー



ハロウィンパーティー



インターナショナルゲーム